

# 2020年3月期 決算の概要

2020年5月14日

みずほリース株式会社

MIZUHO

## 2019年度の総括

- 親会社株主に帰属する当期純利益は、第6次中期経営計画初年度の計画を上回り、7期連続で最高益を更新
  - － 各利益で過去最高益を達成
- 年間配当金は82円（前年度比+4円、創立50周年記念配当2円含む）と、18期連続で増配を予定

(億円)	17年度	18年度	19年度	増減額	増減率	19年度 通期予想*	達成率
売上高	3,997	3,849	5,392	+1,543	+40%	4,500	120%
差引利益	452	526	603	+77	+15%	-	-
営業利益	192	229	263	+34	+15%	242	109%
経常利益	200	242	267	+25	+10%	253	106%
親会社株主に帰属する 当期純利益	136	166	175	+9	+6%	170	103%

\*2019年5月14日公表

# 決算概要

(億円)	17年度	18年度	19年度	増減額	増減率	
売上高	3,997	3,849	5,392	+1,543	+40%	不動産ブリッジ案件の満了に伴う物件売却等により増加
差引利益	452	526	603	+77	+15%	注力分野への取り組みやみずほフィナンシャルグループとの協業によるリース収益の増加、投資物件の入れ替え等が要因
資金原価	(70)	(85)	(97)	+12	+15%	
売上総利益	382	441	505	+64	+14%	外貨資産の増加に伴う外貨借入の増加によるもの
信用コスト	▲8	▲2	▲3	▲1	-	
営業利益	192	229	263	+34	+15%	信用コストは戻入が継続
営業外収益	12	24	15	▲9	▲38%	
経常利益	200	242	267	+25	+10%	前年度特殊要因の剥落
親会社株主に帰属する当期純利益	136	166	175	+9	+6%	
差引利益率	2.74%	2.84%	2.93%	+0.09pt	-	差引利益率は継続して上昇

(注) 差引利益率 = 差引利益 ÷ 営業資産 (期首期末平均残高)

(億円)	18/3末	19/3末	20/3末	増減額	増減率
営業資産残高	16,830	20,214	20,903	+689	+3%
純資産	1,546	1,822	1,958	+136	+7%
自己資本比率	8.2%	8.0%	7.9%	-	-

# 事業の状況

(億円)	17年度	18年度	19年度	増減額	増減率
<b>契約実行高</b>	13,359	15,488	12,824	▲2,664	▲17%
リース・割賦	4,305	5,494	6,924	+1,430	+26%
ファイナンス	9,015	9,967	5,901	▲4,066	▲41%
その他	39	27	-	▲27	-

- リース・割賦は、産業・工作機械、情報通信機器、不動産を中心に増加
- ファイナンスは、短期の商流ファイナンスの減少が主因

(億円)	18/3末	19/3末	20/3末	増減額	増減率
<b>営業資産残高</b>	16,830	20,214	20,903	+689	+3%
リース・割賦	11,222	13,061	14,674	+1,613	+12%
ファイナンス	5,569	7,090	6,229	▲861	▲12%
その他	39	63	-	▲63	-

- リース・割賦の残高は、契約実行高の増加に伴い高水準
- ファイナンスは、短期の商流ファイナンスの残高減少に伴うもの

# 契約実行高／リース・割賦セグメント

## 機種別契約実行高

(億円)	17年度	18年度	19年度	増減額	増減率	
産業・工作機械	615	1,141	1,450	+309	+27%	大企業の設備投資ニーズを捕捉し、大口案件を取り込み
情報通信機器	812	934	1,529	+595	+64%	通信事業者の設備投資ニーズを幅広く捕捉し、大幅に増加
輸送用機器	541	713	762	+49	+7%	
土木建設機械	476	447	401	▲46	▲10%	中国での取り組みを抑制
医療機器	164	203	156	▲47	▲23%	環境変化を見極め、前年度に増加した海外向け取り組みを抑制
商業・サービス業用機器	320	382	301	▲81	▲21%	前年度大口案件の反落が要因
事務用機器	98	85	90	+5	+5%	
その他	1,278	1,589	2,234	+645	+41%	
うち不動産	848	1,268	1,806	+538	+42%	物流施設等を対象としたブリッジ案件の実行が増加
合計	4,305	5,494	6,924	+1,430	+26%	

# 契約実行高／ファイナンスセグメント

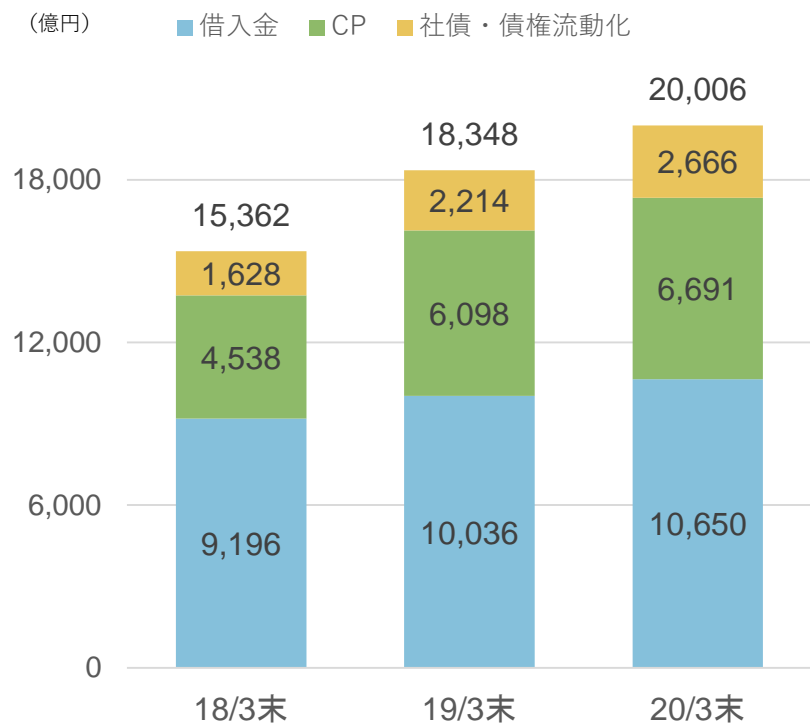
## 契約実行高

(億円)	17年度	18年度	19年度	増減額	増減率	
商流ファイナンス・融資等	8,228	8,563	4,923	▲3,640	▲43%	短期の商流ファイナンスが減少
航空機	313	228	200	▲28	▲12%	
不動産	394	970	578	▲392	▲40%	前年度に大口ブリッジ案件を獲得
船舶	80	206	200	▲6	▲3%	
合計	9,015	9,967	5,901	▲4,066	▲41%	

# 資金調達等の状況

- 営業資産残高の増加並びに海外共同事業会社への投資により、有利子負債残高は増加
- 資金原価の増加は、外貨資産の増加に伴う外貨借入増を主因とするもの
- 市場調達の活用をはじめ機動的な資金調達により、資金原価率は前年度と同等の低水準に

## 有利子負債残高



## 資金原価（率）

(億円)	17年度	18年度	19年度
資金原価	70	85	97
資金原価率	0.42%	0.46%	0.47%

(注) 資金原価率 = 資金原価 ÷ 営業資産 (期首期末平均残高)

## 外部格付の状況

格付機関	格付	
R&I	長期	A
	短期	a-1
JCR	長期	A+
	短期	-

## 2020年度業績予想

- 2020年度は、新型コロナウイルスの蔓延による厳しい経済状況が第1四半期は継続し、その後緩やかな回復を見込むものの、年内は影響が残ると想定  
かかる状況下、営業資産の積み上げの後ずれや、信用コスト・資金調達コストの増加等の影響を見込む
- 厳しい経営環境ではあるが、引き続き第6次中期経営計画で掲げる戦略へ取り組むことで、親会社株主に帰属する当期純利益で**180億円**を目指す

(億円)	2018年度 (実績)	2019年度 (実績) ①	2020年度 (予想) ②	増減額 ②-①	増減率 ②/①
売上高	3,849	5,392	5,000	▲392	▲7%
営業利益	229	263	208	▲55	▲21%
経常利益	242	267	236	▲31	▲12%
親会社株主に帰属する 当期純利益	166	175	180	+5	+3%



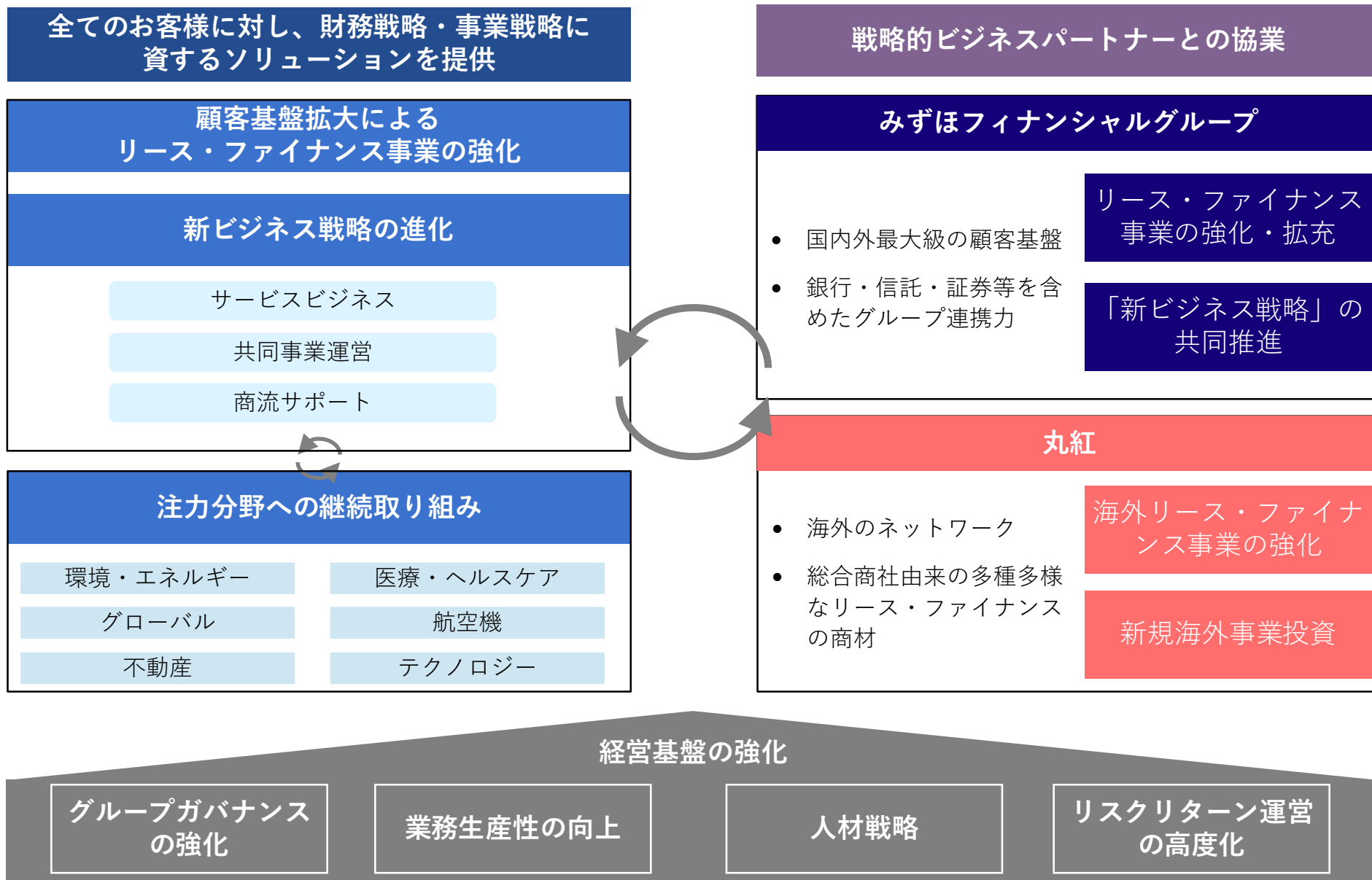
# 配当金

- 2019年度の期末配当金は42円を予定
- 2020年度の業績予想のもと、配当性向等株主還元と資本蓄積のバランスを考慮し、2020年度の年間配当金は84円と19期連続の増配を予定

	2018年度 (実績)	2019年度 (実績) ①	2020年度 (予想) ②	増減額 ②-①
年間配当金	78円	(予定) 82円	84円	+2円
(同上、記念配当除く)	(78円)	(80円)	(84円)	+4円
中間配当	38円	38円	40円	+2円
記念配当	-	2円	-	-
期末配当	40円	(予定) 42円	44円	+2円
配当性向	20.1%	22.7%	22.6%	▲0.1pt

# 決算補足資料

# 第6次中期経営計画（2019～2023年度）の概要



# 第6次中期経営計画（2019～2023年度）の最終年度の連結数値目標

親会社株主に帰属  
する当期純利益

300億円

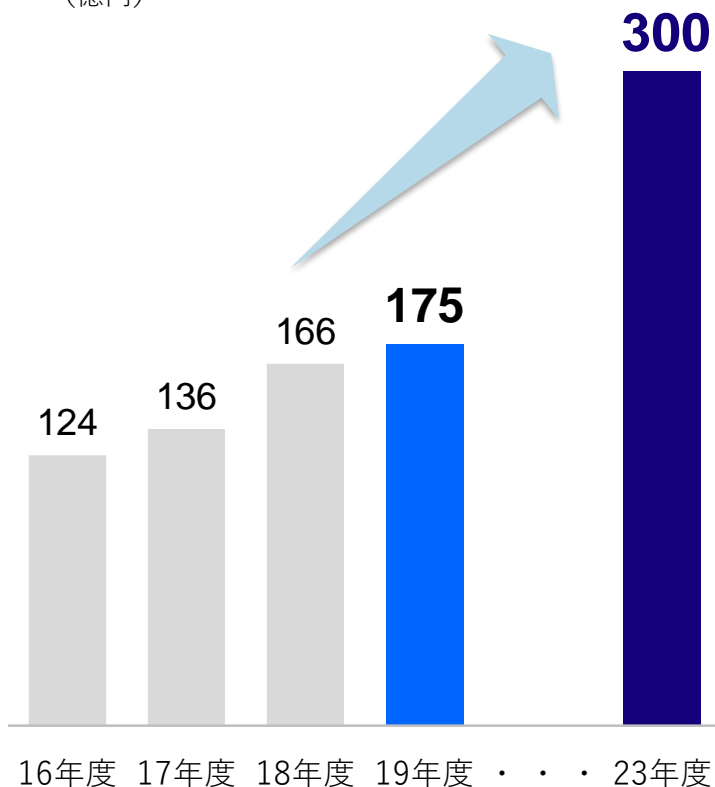
グローバル分野  
の残高

2019年3月末比  
3倍

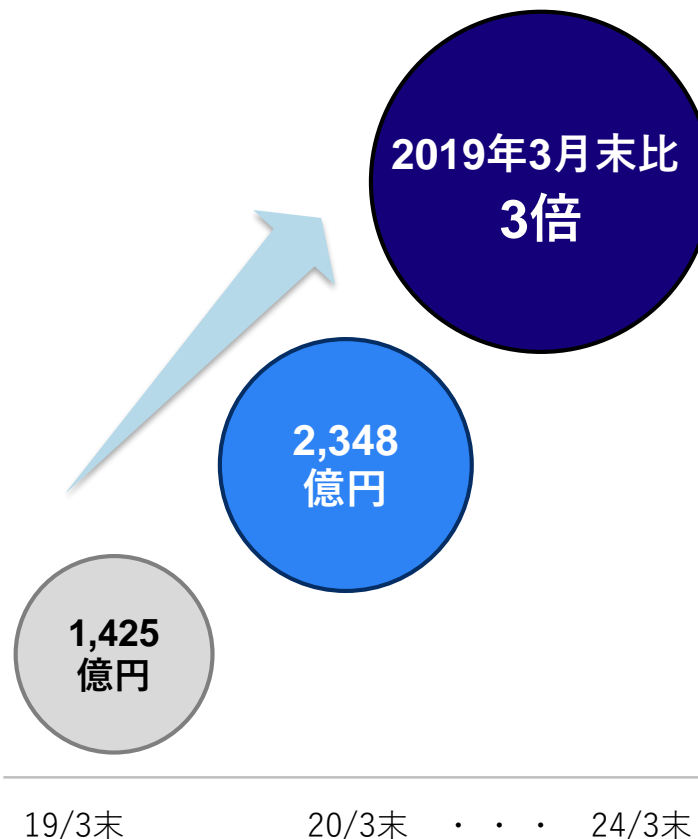
配当  
性向

25%以上を  
目指す

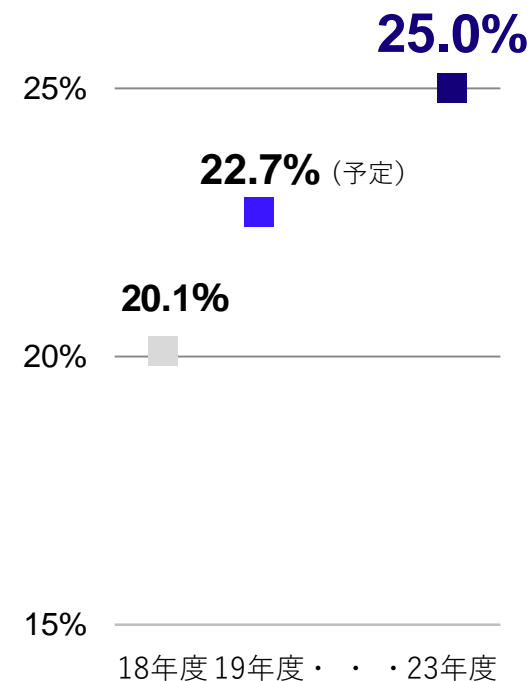
(億円)



19年度実績 175億円



20年3月末残高 2,348億円



19年度配当性向  
22.7%(予定)

# お問い合わせ先

## みずほリース株式会社

経営企画部

コーポレートコミュニケーション室

TEL:03-5253-6540

FAX:03-5253-6539

本資料には現時点で入手している情報に基づき当社が判断した将来の予測数値が含まれておりますが、一定のリスクや不確実性が含まれており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。  
将来に関する事項については様々な要因により変動することがございますので、ご留意下さい。

**MIZUHO**